



発行日 = 2009年2月25日 発行人 = 面出 薫 編集 = 田沼 彩子・中山 Rachel・三宅博行
照明探偵団・事務局 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-28-10 ライティングプランナーズ アソシエーツ内 (田沼 彩子)
TEL : 03-5469-1022 FAX : 03-5469-1023 e-mail : office@shomei-tanteidan.org http://www.shomei-tanteidan.org

照明探偵団通信

vol. 33 Shomei Tanteidan Tsu-shin

海外調査レポート

マレーシア調査

クアラルンプール / プトラジャヤ / ペナン

「マレーシアの光にみる国家の威信」

(2008/12/9-14)

国内調査レポート

東京調査：首都高

「Tokyo Night Drive」

(2008/11/20)

照明探偵団倶楽部活動 1

ライトアップニンジャ・ジュニア

in Singapore

(2008/10/11)

照明探偵団倶楽部活動 2

ライトアップニンジャ：横浜

(2008/11/14)

照明探偵団倶楽部活動 3

2008 照明探偵団サロン

「住まいのあかり 過去・現在・未来」

第2回 白熱ランプが住宅から消える？

(2008/10/17)

照明探偵団倶楽部活動 4

2008 照明探偵団サロン

「住まいのあかり 過去・現在・未来」

第3回 未来の住宅照明を展望する

(2009/1/16)



クアラルンプールのシンボル、ペトロナス・ツインタワー

海外調査：マレーシアの3都市 「マレーシアの光にみる国家の威信」

2008.12.09 - 14

菅又健雄 + 山本幹根

東南アジアの中心に位置し、多様な民族と大自然が魅力的なマレーシア。近年、著しく発展している都市部の現状を調査する為、3箇所の都市調査を行った。急激な経済成長を続けるクアラルンプール、首都機能移転により開発の進むプトラジャヤ、イギリス統治時代の優雅な建築が歴史を感じさせるペナン、それぞれの都市は、独自の文化を保ちつつ現代化が進んでおり、魅力的な街でした。

■光輝くツインタワー

クアラルンプール市街には、イギリス統治時代の建築や様々な文化による建築様式が混在しており、独特の景観を作り出している。その中で、ペトロナス・ツインタワーは、クアラルンプールのシンボルとなっており、かつては、世界で最も高いビルであった。タワーのファサード照明は、地上からのフラッドライトと中層部からの照明によりファサードを白色の色で照らしている。その光は、暴力的な程の明るさでライトアップされており、上空の雲を照らすことにより、一層存在感を増す。暗く沈んだ街中に、光り輝く二つのタワーが浮かび上がる光景は、支配的であり、象徴的であった。突如現れた様な近未来的で光を纏ったタワーは、なぜか美しく感じた。

■時間の混在

ブキッ・ビンタンは、ショッピングセンターやレストラン、高級ホテルが建ち並び、クアラルンプール随一の繁華街だ。その中でも、ブキッ・ビンタン通りは最も賑わいを見せている。その通りの東側は、現代建築が建ち並び都会的な雰囲気であるが、西に行くにつれ古い建築が密集し、アジアの繁華街という感じの雰囲気になっていく。クリスマスシーズンだからなのか、光の要素も多く、光が溢れているこの通りは、多くの人で賑わっていた。車道用のポール灯は、ナトリウムランプを使用しオレンジ色に照らす。ポール灯の器具は、形状、ピッチ、配光など全てバラバラで、通りとしては、統一感が全く無い。しかし、新しく出来た建築の前は、既存のポール灯が残りつつ、新たなポール灯が追加され、ポール灯のトップには、建築のファサードを照らすための照明器具が設置されていた。通りとしての魅力を引き出す為にも、無駄なポール灯を排除し、グレアを感じない光にして欲しい。

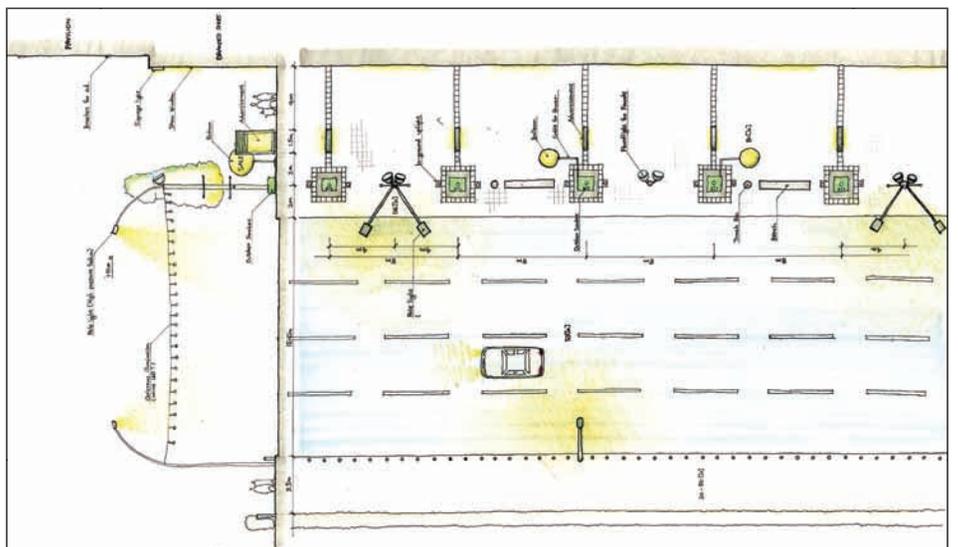


都心部から少し離れたティティワングサ公園は、カップルたちが集まる夜景スポット。湖の水面に映り込む光を見ても、ツインタワーはしっかりと存在感を示している。



KLのシンボル、ペトロナス・ツインタワーは、暴力的な程の明るさで照らされているが、暗く沈んだ街中に浮かび上がる光景は、なぜか美しく感じた。

KL随一の繁華街であるブキッ・ビンタン。そこでは、様々な照明手法を見ることが出来る。しかし、通りの照明としては、統一性が無く、雑多な感じであった。



ブキッ・ビンタン通りの断面

■首都機能移転都市

クアラルンプールから、南へ25kmに位置するプトラジャヤは、行政新首都として、中央省庁・連邦裁判所・首相府などの行政機関が置かれ、2010年には住宅や公園等の環境整備などのすべての開発が完了する予定となっている。都市の中心部には、行政などの主要な建築が建設されており、周辺は人工の湖に囲まれている。そのため、橋は重要な要素となり、全ての橋は特徴的なデザインである。緻密に計画されたこの都市では、建築のデザインや配置計画から国家の威信や象徴性が感じられる。照明に関しても、開発途中の段階で2002年9月「Putrajaya Good Lighting Practice Guidelines」というガイドラインが策定されており（照明手法や照度設定、色温度設定などが記載されている）、それら表現する為の要素となっている。特に重要となるセントラル・ブルバードは、全長4kmの通りで島の中央を貫く。道幅は、歩道を含め100mとスケールが大きくパースペクティブ的に見えてくる。ここでの特徴的な照明手法は、樹木のライトアップは車の進行方向から見える方向のみアップライトされていたり、建築のファサードを照らす埋め込みのフラッドライトが入っており、光の帯を作り出していた。その道のフォーカルポイントとして首相官邸があり、それを象徴的に演出する光であった。ただ、働いている役人たちは夕方早く周辺の住宅に帰ってしまうため、夜になると人の気配が無くなり、現実からかけ離れたバーチャルな都市に感じた。

■都市と水

人工の湖に囲まれたこの都市では、対岸や橋など様々な視点から重要な施設を見ることが出来る。建築物は、イスラム風の建築や現代建築が建ち並び、それぞれ違った建築であるが、景観を壊さないように色や高さなどが場所ごとに統一されている。夜になると、それらの建築物がライトアップされ、建築の特徴に合わせた照明手法を使用している。特に水辺からの視点は重要な要素となっており、日没になり始めると、建築からの光がブルーに染まる水面に映り込む。次第に水面が暗くなり、逆に建築からの光が水面に浮かびあがり、幻想的な景観を作り出す。また、橋のライトアップもデザインに合わせ、様々な照明手法を使用していた。グレアを感じないように器具にフードが取り付けられていたり、カラーライティングにより印象的な景観を作り出していた。



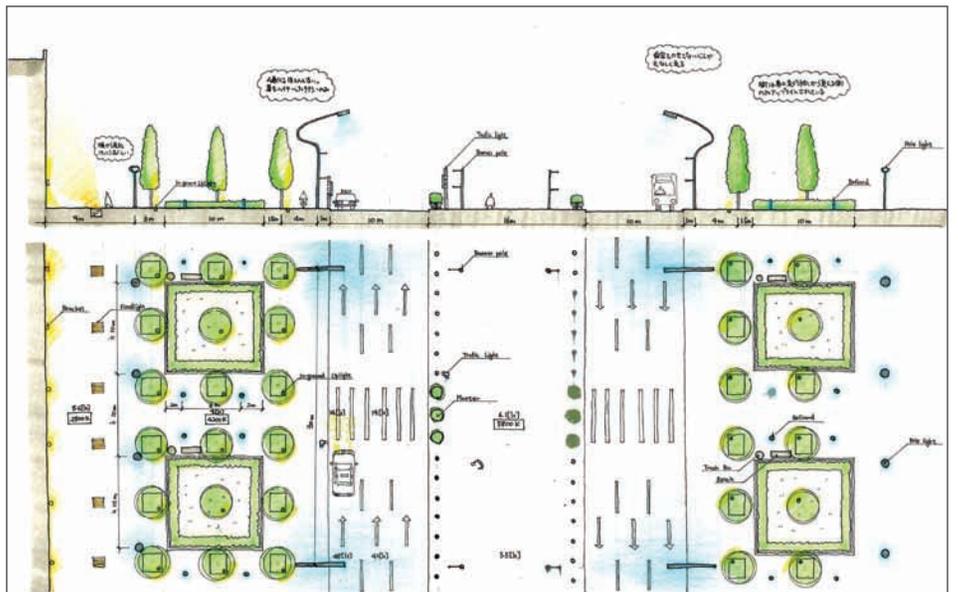
国家の威信を感じるこの街は、象徴的な都市計画がされている。照明に関しても、照明手法や照度設定を使い分ける事により表現されていた。



プトラジャヤの中心部は、人工の湖に囲まれている。そのため橋は重要な要素になっており、それぞれ特徴的なデザインである。



プトラジャヤの中心部にある首相官邸とプトラモスク。イスラム風の建築に合わせた光は、ブルーに染まる水面に映り込み、幻想的な風景を作り出す。



セントラル・ブルバードの断面

■文化の融合都市

マレーシア第二の観光都市、ペナン島。イギリス統治時代の歴史的遺産が多く、東西の貿易の中継地であったため、数多くの文化が融合した街が形成されている。また、2008年にジョージタウンの市街は、世界遺産として登録された。

まず、ジョージタウンを一望できる、ペナンヒル（ペナン島の中心に位置する）に登り、調査を開始した。この街には、高層の建築がほとんど無く、30m以下くらいの朱色の屋根を持った建築（ショップハウス）が多いのが特徴的である。街全体で見ると、赤っぽい街として見えてくる。空が暗くなるとともに、街灯が点灯し始め、ボリュームとして見えていた建築物と、地上レベルの道が、じんわりと反転して見えてくる。この夜景で特徴的なのは、建築に対して目立ったライトアップが無く、暗く沈んでいく低い建築の隙間から道のラインがくっきりと浮かび上がる美しさを感じた。

■世界遺産

次に、ジョージタウン市街の調査を行った。ヨーロッパの様に美しい街並みとは言えないが、使い込まれた生活感のある街だと思った。近景からの特徴的な光として見えてくるのが、大きな通りに面した樹木のアップライトであった。緑色の250Wメタハラを使用し樹木をアップライトしている為、緑がとても鮮やかに見えるが、車道に沿って連続して見えてくるので異様な感じがした。一方、建築の照明は、あまり特徴的な光は無く、ライトアップされている建築はほとんど見かけられなかったが、車道に並ぶ屋台などの光は煌々と一帯を照らし、活気とエネルギーを感じる光であった。

(山本幹根)



市街にある展望台（コムタ）からの俯瞰。車道の光が暗く沈んだ建物の隙間から漏れ、ゆっくりと時間が流れて行く。



グリーンに照らされた樹木は、この街では多く見ることが出来る。少し不気味ではあるが、緑は鮮やかに見え、静かな街並みに特徴を与えていた。

屋間には人通りの少ない場所が、夜には一転して、多くの屋台が建ち並ぶ。アジアっぽさを感じる光だった。

東京調査：首都高 「Tokyo Night Drive」

2008.11.20

小川祐樹 + 三宅博行

夜の首都高を走ると、東京の光をシークエンスとして体験することができる。ビルの合間に断続的に立ち現れる東京タワー、上空まで輝く銀座のネオン街、暗く沈みこむ皇居や海。
-TOKYO NIGHT DRIVE- 我々探偵団は車にビデオカメラを取り付け、都市の中心をうねるように廻る首都高を走った。

東京の光はこれまでの調査で示されてきたようにエリアごとにそれぞれ異なる特徴を持っている。これらのエリアをつなぐ首都高からみた都市のシークエンスは多様性に富んでおり、目を奪われるような光景の変遷がいくつか存在した。それらから東京の光を特徴づけていると感じた5つのシークエンスをピックアップしルートとあわせて紹介する。

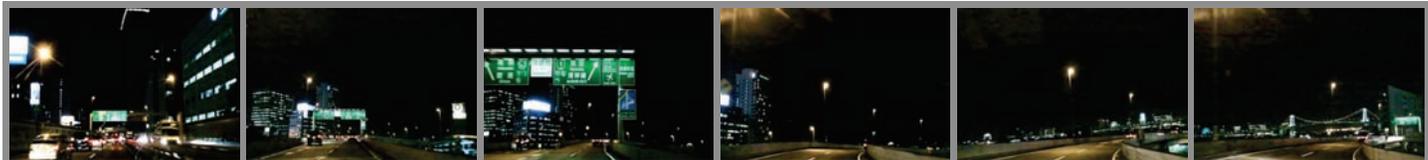


- : 調査区間
- ① 浜崎橋JCT → 芝浦ジャンクション
 - ② 有明 → 西銀座
 - ③ レインボーブリッジ → 芝浦ジャンクション
 - ④ 平和島 → 芝浦JCT
 - ⑤ 豊ヶ岡 → 三宅坂 → 竹橋

都心環状線と南側の都心への入り口を中心に調査を行った。走行距離は延べ400kmを越えた。

■ 浜崎橋ジャンクション → レインボーブリッジ < 環状線C1外回り → 台場線11 >

湾岸方面へ浜崎橋 JCT をすぎるとすぐに大きなカーブにさしかかる。ここで突然視界が開け、湾岸夜景が広がる。ほぼ同色となった海と空の境にレインボーブリッジがかかり、その向こうに台場の光が見える。時間にすると10秒程度のシーンだが、都市から海へのドラマティックな展開が印象的だった。さらに進むと道はレインボーブリッジへと向かい、白く輝く2本の巨大な橋梁が次第にスケールを増してくる。橋梁を潜り抜け台場へと向かう道では、等間隔のポール灯と白くそびえる橋梁が黒い背景と相まって、求心性と疾走感を感じさせる光景が生まれていた。



ビルにはさまれた道 ▶ 右側の視界が開けてくる ▶ 海へ達する直前でカーブ ▶ 一気に空がひらける ▶ 対岸の輝きが現れる ▶ 遠景にレインボーブリッジ

■ 京橋 → 西銀座 < 環状線C1外回り → 東京高速道路 >

東京高速道路は銀座の中空を縫って抜ける道路だ。正確には首都高ではなく、車通りも少ない。屋はビルに囲まれて薄暗い感じのする道だが、夜には他では味わえない景色が広がる。飛行船のようにぼっかりと浮かんだ東京国際フォーラムの光へと大接近し、その後銀座のネオンに迎えられる。空までも明るい数寄屋橋交差点は銀座らしさを語る光景の一つだろう。



本線を外れ坂を登る ▶ ビルの間に浮かぶ鉄骨 ▶ 国際フォーラムに接近 ▶ 空まで明るくなっている ▶ 数寄屋橋交差点の真上 ▶ 暗いビルの裏側も通る

■ レインボーブリッジ→芝浦ジャンクション→東京タワー<台場線11→環状線C1外回り>

前述したレインボーブリッジを台場側から渡るルート。ここで遭遇するシーケンスは最も魅力的な東京夜景のひとつと言えるだろう。有明方面からブリッジに差し掛かるあたりで、海の向こうの東京タワーやビル群の光が現れ始め、これらは道のうねりにあわせて左右へゆっくりと揺れ動く。橋が直線に入ると近くに見えるのは橋そのものだけであり、高速で流れるポール灯の光と、ゆっくりと移動する海沿いのビル群の光、そしてそのさらに奥でとどまる東京タワーの光が、速度の異なる複層のレイヤーとなり、美しい光景を生み出していた。橋を渡りきった時には、東京タワーはすぐに他のビル群に呑み込まれてしまったが、断続的にビルの合間から姿を見せながら、徐々にスケールアップしていく光景は、その都度目を奪うと同時に、その全体像を現わすことへの期待感をあおるものでもあった。



速度の違う光が遠近に重層しながら流れ去ってゆく11号上りが東京でもっともドラマチックなルートだろう。ぜひ探偵団ウェブサイトの動画も見てほしい。

■ 平和島→芝浦ジャンクション<羽田線1>

羽田から都心に向かって走ると、遠方のビルの中に東京タワーが時折顔を出す。空港から東京に向かう人々にとっては次第にスケールアップする東京タワーが、都心との距離を表わすバロメーターになるのだろう。近景では、巨大な倉庫が立ち並ぶ大雑把な光から、次第に集合住宅やオフィスビルの光が中心となり、見える光から人の営みを感じられてくる。そしてモノレールの下をくぐる頃、極めて東京らしい、ビルと広告の光が溢れだす。まさにこの時、東京に迎え入れられたと言えるのかもしれない。



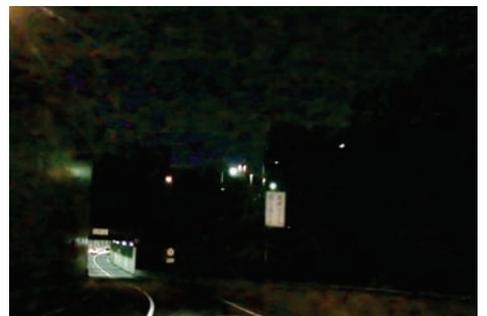
ビルとビルの隙間から時に東京タワーが覗く。写真は天王洲アイルを少し過ぎたところ。



都心への入り口に差し掛かったとき、タイミングよくモノレールが頭上を走り抜けていった。

■ 霞ヶ関→三宅坂ジャンクション→竹橋ジャンクション<環状線C1外回り>

東京の夜にはブラックホールのような暗いエリアが点在する。その一つである皇居の杜。首都高はその周囲や地下にも巡らされており、このルートは首都高の中心に位置しながらも最も暗いという特異なルートとなっている。都市の中空をビルの合間をぬって走っていたはずが、霞ヶ関で突如地下へ潜り、トンネルを抜けた時には既にビルは遠く、木々に囲まれた暗い道にでる。そしてすぐに三宅坂のトンネルに入るのだが、今回の調査で暗さの印象を最も強く受けたのがこのシーンだった。



代官町付近。昼は緑の豊かな、そして夜は完全な暗闇と化した皇居が右手に広がっている。

■ 調査を終えて

今回の調査で、都市には走ることで初めて気づくドラマティックな光の展開が存在することを実感した。銀座や六本木、東京タワーなどこれまで歩いて調査したエリアの光も車からだまた違って見えてくる。流れる光、近づく光、遠ざかる光、隠れる光、動きがあるからこそその光を体験することができる。

あなたも夜の東京を車で走る機会があれば少し遠回りでもして、光を楽しむ道を行ってみてはどうだろうか。ただし車は走る凶器、脇見運転にはくれぐれもご注意を。

(小川祐樹)

ライトアップニンジャ ジュニア @ Singapore

2008.10.11

服部祐介

■ “Light Up Ninja Junior” は SIA(Singapore Institute of Architect) が主催する “archifest08” というイベントの一環として開催することになり、照明探偵団史上初となる子供のためのワークショップということで、新たな展開への期待と、果たして企画が成功するのかという不安が交錯していました。ワークショップの場所はいろいろな議論の末、N Parks (国家公園課) の支援を受けて、国立植物園 Singapore Botanic Gardens 内にある Jacob Ballas Children’s Garden となりました。4 歳から 10 歳までの、30 人の子供達とどう光の遊びをしようか。子供が相手ということで、普段のワークショップでは気を配ることがないようなことを様々に想定しながら、子供たちと光が戯れる様子を思い描きました。そして、子供達が自分で作った行灯を園内の要所に置き、ほのかな光を実感する、個々に持った懐中電灯でいろいろな樹木をライトアップして練り歩くという二つのプログラムを用意しました。

照明探偵団シンガポール支部では、シンガポール建築家協会 (SIA) の主催する建築祭 “Archifest08” の参加イベントとして “Light Up Ninja Junior” を主宰しました。3 年ぶりの Light Up Ninja は子供が主役というなんとも愉快な、はたまた予測不能なワークショップとなったのでした。



The poster features a central graphic of a black silhouette of a ninja character holding a glowing yellow light. Above the character is a black cloud-like shape containing the text "archifest 08". Below the character, the text "light up ninja?" is written in a stylized font. To the left of the character, the text "Light Up Ninja Jr.!" is written in a red font, followed by "11 Oct 2008, 5 - 8pm." and "Jacob Ballas Children's Garden, Singapore Botanic Gardens." Below this, it says "Come & Play with Light!". To the right of the character, there is a block of text in English describing the event, organized by The Lighting Detectives, and providing registration information. At the bottom of the poster, there are logos for the organizing and supporting organizations: LPA, National Parks, Philips, SIA, and archifest 08.

照明探偵団ニンジャロゴと archifest08 ロゴとのコラボレーション。4 ~ 13 歳の子供を募集すると瞬間に満員御礼。

■ 本番当日は天候にも恵まれ 17 時半からスタート。司会進行は子供が好きだという Brian 団員が引き受けてくれました。SIA カウンシルメンバーの建築家パパたちもチームリーダーとして参加してくれました。面出団長の挨拶に始まり、行灯の作り方を説明すると、早速制作を開始。一枚のトレペに、思い思いに絵を描き様々な色の切り紙を張り、LED ロウソクに巻いて行灯は出来上がり。最初は緊張気味だった子供たちも行灯作りに夢中になっていました。終盤は、ライトアップのために用意した懐中電灯にトレペを巻いてライトセーバーに変身させ、それを持って夢中に走り回る子供たちが続出。それを見て大人たちが苦笑していると、その中には子供たちと一緒に戯れる面出団長の姿が。そう、照明探偵団員たるものいつまでも少年の心を忘れてはならないのでした。



子供たちはまだ少々緊張気味。「残念ながら今回は本物のロウソクを使うことができないので、LED のロウソクを使います。」と面出団長。



製作を開始！隣の様子をうかがいながらも、おそるおそるペンを握る子供達。3分後には何の躊躇もなくペンを走らせていました。



照明探偵団にとっても子供達にとっても初めての経験となり、思わぬ発見があった今回のワークショップ。みなさんたいへんよくできました！

■いよいよ日が暮れて、行灯とライトセーバーを持って園内をパレード。なんとパレードには暗闇から突如現れたニンジャも参加しました。ニンジャは光で照らされることが苦手なのだを知ると、持っている行灯やライトセーバーで一斉に照らして、ニンジャのうろたえる姿に子供たちは大喜び、闇の中に潜めないニンジャはなんとも惨めな姿でした。そしてそんな中集合写真を撮影して無事にフィナーレを迎えたのでした。最終的には当初のプログラムとは違う内容となったのですが、それもまたよし。何より子供達が光で遊ぶことを覚えて帰ったようで今回のワークショップは大成功でした。シンガポール支部の団員、お疲れ様でした。そしてご協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。



ライトセーバーではしゃぐ子供達の中に面出団長の姿を発見。いつまでも少年の心を忘れずにいることは大切ですね。



園内をパレードで巡回した後、暗闇の中で集合写真。パレードに突如参加したニンジャもみんなと記念撮影。

みんなそろっていざ点灯。子供は純粋にヒカリモノが好きなのでしょう。歓声が沸きあがる中、指揮をとるのは団員のBrian。

ライトアップニンジャ @ 横浜

2008.11.14

板倉厚 + 山本幹根 + 矢野大輔

都市の中に豊かなウォーターフロントがある横浜。海と都市が織り成すコントラストが、横浜らしい魅力を生み、多くの人々を惹きつけているが、夜ともなればその光景は、一転し、暗く洗んだ水が都市の景観を分断している。水・人・光との関係をもっと積極的に近づける事が、港町横浜の新たな魅力を引き出すキーワードになるのではと考え、横浜市都市デザイン室と照明実験を企画した。

■横浜へ行こう！現地調査

今回のニンジャを担当する事になった板倉・山本・矢野の3団員は、まずは頭で考えるよりも、行動しようと思い立ち、5月のとある日、横浜へと向かった。

どんな隠された魅力が横浜にはあるのだろうか、現地でレンタルサイクルを借り、山下町～本牧まで横浜中を、くまなく走り廻った。(翌日、筋肉痛が我々を襲ったのは言うまでも無い。)

高速道路高架橋下や外人墓地、本牧埠頭または観光スポットまで、いくつかの気になったエリアで止まり・記録し、そこで何が出来るのかを検討して行った。そして最後に我々の目に留まったのが自動車道だった。都市の中に埋もれた、暗い水平ライン……。ん、これは、何か面白い事が出来るかもしれないと、3人ともに直感した。その後、何度か自動車道を訪れ、怪しい実測調査を行い、何が自動車道の隠された魅力で、どの様にその魅力を照明で引き出せるのか、検討を重ねた。

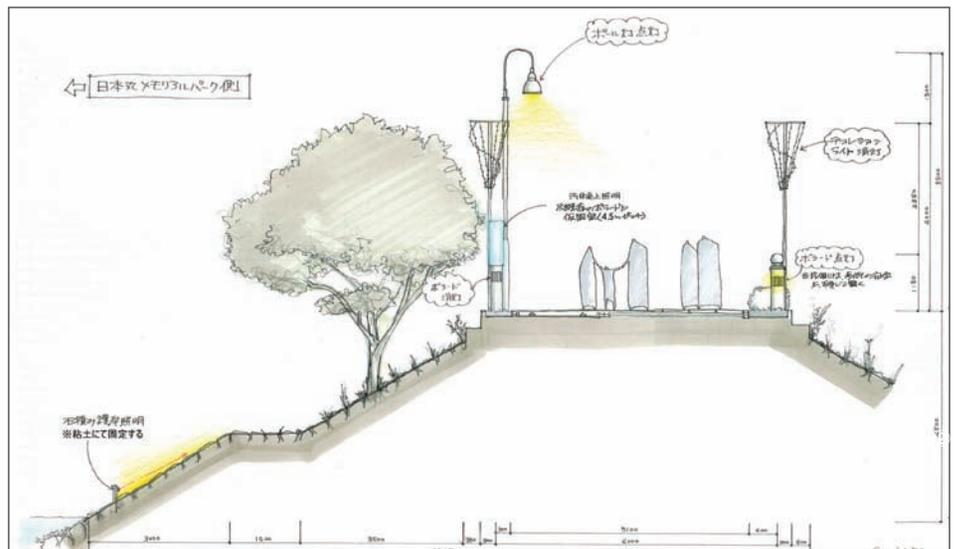
■アイデアブレインストーミング

最初は様々なアイデアが出ていたが、如何せんたった一夜限りの実験である事や、予算も限られているし、また関係各所への許可申請が予想以上に大変な事などから、だんだん現実的な方向・計画に落ちついて行った。

その中で我々がこだわって、最後まで残ったのが水中灯の実験だった。古くからお付き合いのある、メーカーに協力を仰ぎ、集魚灯として使われている水中灯をお借りした。水中から、水際を照らして見ようと言うのが我々のアイデアだ。さて、その結果は如何に？



現状の自動車道。黒い帯が夜景を分断してしまっている。



自動車道実測断面イメージスケッチ
この絵を元に、横浜市や消防、警察などに向けて説明を行った。



真剣な表情で説明を聞くボランティアスタッフ。



鉄骨に抱きつきながら作業してもらいました。本当にご苦労様。



当日のボランティアスタッフがアロンドンの設置に取り組んでいる。

■実験開始！

実験当日は我々の努力が報われたのか、晴天に恵まれ絶好の実験日和。何よりも自分たちが楽しむ事が大切だと、ポカポカとした陽気のもと、ボランティアの方々と楽しく準備・設営を行った。

辺りも夕闇に包まれ、いよいよ水中灯の電源もON。だんだんとその明るさが増すにつれ、海中が明るく照らしだされて行く様にドキドキした。

本来は海洋で使うメタルハライド2kwの水中灯に、反射板を取り付け護岸に向かって照明したが、護岸までの距離が近い事もあり、実際は汽車道上にも届かんばかりの、予想以上のパワフルな光だった。しかし、普段は闇に沈んでいる海中がゆらゆらと照らしだされ、そこには幻想的な風景が広がっていた。

その他、歴史ある石積みの護岸をLED ボーダーライトで連続的に照らし上げ、その陰影を対岸から観察したり、既存の汽車道上ポラードに、LED を仕込んだアンドン照明を被せ、光の色や動きを変化させたりと様々な仕掛けを作った。

中でも好評だったのが、橋梁の鉄骨トラスに仕込んだ照明だった。背景が暗い事もあり、構造体に照明を仕込む事で、無骨なイメージの橋が見事にアートワークの様に変貌した。

事前準備で随分と苦労したが、この実験で多くの事が検証出来た。

朝早くから準備・設置作業を手伝っていただいたボランティアの方々、電気配線作業をしていただいた保谷さん、快く器具の提供をしていただいた協賛メーカーの方々、そして関係各所への許可・申請に奔走していただいた横浜市都市デザイン室の方々に、この場を借りてお礼申し上げます。

(板倉厚)



① 汽車道上のLEDアンドン照明。ウーン、ちょっと周りの光に圧倒されてしまったかな。

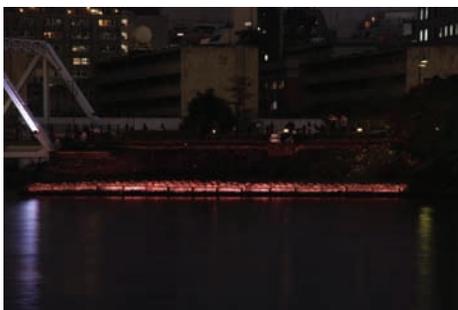
② 水にゆらゆらと浮かぶ照明に照らされた、普段見えない横浜の海底は意外と綺麗！？

③ LED照明によって橋梁が夕暮れに浮かぶ。トラス構造を照らしたり外側を照らしたり。様々な色変化によって橋梁はアートワークの様美しく変身した。

④ 昼間は無骨な橋も、光の化粧をまとい、意外ときれい。



こんな感じで実験を行った。



護岸照明を対岸より観察。暖色光による。



全員集合。お疲れ様でした!!

照明探偵団サロン第36回 「住まいのあかり 過去・現在・未来」 白熱ランプが住宅から消える？

2008.10.17

永田恵美子 + 谷川千晶 + 三宅博行

2008年度の探偵団サロンは、『住まいのあかり - 過去・現在・未来』をテーマに3回シリーズで展開しています。今回、第2回目のテーマは『白熱ランプが住宅から消える？』。この、まさに時事的な話題について、環境・技術・心理・生理・デザイン・社会など様々な側面から熱い議論が交わされました。

■白熱電球が生産中止！

2008年5月14日、新聞各紙の朝刊に見開き全面広告が掲載されました。東芝による白熱電球生産中止の発表です。電球がこんなに大きく掲載されたことなど初めてでしょう。何年も前から政府や様々な機関が、白熱電球の使用を抑えて電球型蛍光灯に変えるようキャンペーンをはっていましたが、とうとう生産中止まで来ました。これは照明の世界に起こっている大変革と言えるでしょう。

■白熱電球はなくなるべきなのか。

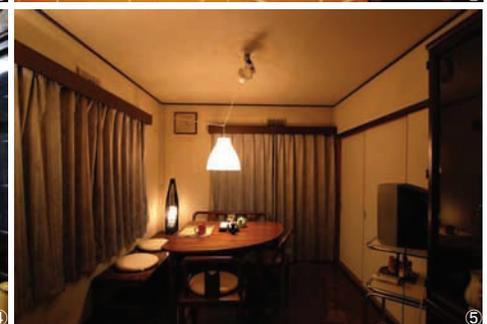
電気屋では白熱灯へのシュプレヒコールの嵐。マスコミでもインターネットでも、白熱灯を使わなければこんなにエコ！といった数値が出回っています。しかし探偵団としては白熱灯の良さを簡単には捨てられません。そこでまず白熱電球の実態を探り、さらには実際に人が住んでいるお宅にお邪魔して白熱電球を点けることに意味があるのか検証を重ね、サロンに臨みました。

■ゲストには照明メーカーの方を…

今回はゲストに、パナソニック電工の照明ソフトエンジニア、岩井彌さんをお迎えしました。明るさ感指標「Feu（フー）」の開発に携わった方です。エンジニアの方を選んだのは、我々とは違う視点のひとと議論することによる、新しい発見を期待してでした。サロン当日、岩井さんが大きなボックスを持ち込み、(中身は後ほど…)、面出団長と探偵団の準備が整う頃、会場もほぼ満席になって、いよいよサロンの開始です。

■探偵団の調査&検証結果発表

まずは探偵団の調査発表。会場に「白熱灯を生活のメインで使っている方は？」と問いかけると3割ほどの方に挙手を頂きました。日本の平均に比べるとずいぶん多いようです。白熱灯による光の優れた点、電球型蛍光灯の効率の優れた点を確認したあと、白熱灯で無駄になっているとされるエネルギーの量がどのくらいか、これまで探偵団でよく取り上げてきた自販機やコンビニの明るすぎて無駄なエネルギーと比較しました。結果は白熱灯のほうがひと桁上。一つ一つは小さいですが、家庭で一般的に使われている総数の多さが勝りました。そして探偵団調査のメインは「お宅訪問」。実際に人の生活しているリビングやダイニングを訪ね、既存の照明を消し、白熱灯をメインに照明を組み立ててきました。



① 2008/5/14 朝日新聞朝刊の東芝の見開き全面広告。生産中止発表の中で最もセンセーショナルだった。
② 面出団長の言葉でいざサロン開幕。会場は最初からほぼ満席です。
③ まず探偵団発表。長きに渡った調査と、いろんな人にご協力いただいた実験成果の発表に熱が入ります。
④ ⑤ S邸のビフォー&アフター。フル点灯ならもちろん蛍光灯のほうが省エネだが、白熱灯は調光してシーン作りができる。
⑥ 実験にご協力くださったお宅の皆様、ありがとうございました。1さん宅では最後にお茶まで頂いてしまいました。

フル点灯するともちろん消費電力は大ですが、適切な調光で元より少なくなります。お住まいの方から「雰囲気があってうちじゃないみたい」、「慣れれば暗さは気にならない」など様々な感想を頂きました。必要なとき以外は落ち着いた光で暮すことが、心地よいと同時に省エネであることが示されました。

■じつは岩井さんは白熱灯支持派！？

ゲストの岩井さんのお話は、エンジニアならではの豊富なデータとテンポのよい話の組み立て。実は岩井さんも、白熱電球廃止は反対でした。工学や生理などさまざまな側面からの理由とともに、実際の光を見せていただきました。前述のボックスの中には3種類の光源に照らされた果物たち。並べてみると違いは一目瞭然。でも一つずつなら、気持ち悪いというほどでもありません。蛍光灯やLEDが、白熱灯に近い演色性を達成してきていることがわかります。他にも白熱灯の長所、調光についての実験もしました。LEDはそのままの色で減光し、なんだか墓場のような薄暗さになります。白熱灯は、減光と同時に赤みが増し、くつろげる温かみのある暗さになっていきます。結びに、エネルギー効率 (lm/W) だけで評価せずに社会全体の明るさを適切に抑え、シーンに応じて落ち着いた光に絞って暮らすことが必須であること、そのためには白熱灯に勝る光源はないことを強調されました。データ+体験で、会場の皆さんも共感されていたようです。

■さまざまな「ことば」から考える

最後は、2050年東京夜景展で集められた、さまざまな業界のリーダーたちによる、光の未来の予想をいくつか取り上げ、それをもとに岩井さんと話を広げます。明るさの予想だけでなく、独自の風景を予想したものなど、バラエティに富んでいます。さらに、会場も交えて質問やコメントを頂きました。特に、岩井さんへのたくさんの質問が、皆の関心の高さを表していました。

■私たちはあかりに何を求めるのか？

ただ単に明るくするデンキではなく、くつろぎの空間や世界を美しく見せてくれるあかりを私たちは求めています。しかしそれは、穏やかであるからこそはかなく脆い存在なのかもしれません。私たちの生活を、心を豊かしてくれる白熱灯。今回のサロンを通じ、白熱灯によってこそ得られる少ないエネルギーで豊かに暮らす選択肢が存在するのだ、という確信を持つことができました。

(三宅博行)



岩井氏のプレゼンテーション。豊富なデータはもちろん、光の体験をさせてもらい、納得させられてしまうお話でした。



3種類の照明のボックスを覗き込む面出団長。面出団長でも、条件によっては光源にだまされることがあるようだ

白熱電球の光は調光すると、減光するに伴って赤みが増していく。特に人が照らされる場合には、雰囲気の差が歴然。



2050年の予言は正にバラエティに富んでいた。話題もそれにあわせてさまざまなところから飛び出した。

最後は会場を交えて議論。特に岩井さんへの質問が多かった。みな聞きたいこと、思うところはたくさんあったようだ。

照明探偵団サロン第37回 「住まいのあかり 過去・現在・未来」 未来の住宅照明を展望する

2009.01.16

田中智香 + 小川祐樹 + 藤井美沙

2008年度の探偵団サロンは、『住まいのあかり - 過去・現在・未来』をテーマに3回シリーズで展開してきました。最終回のテーマは『未来の住宅照明を展望する』です。フィールドワークを通し、目でもって体でもって感じる光を題材にし議論をしてきた探偵団は、もちろん空想的に未来を予測するのではなく現実起こっていることから住まいのあかりの可能性を探りました。

■探偵団レポート「未来の光と生活」

私たちは、LEDなどの「光源」、器となる「住まい」、そして住まい手である「ヒト」の3つの切り口から近未来における住まいのあかりを探ることにしました。「光源」では、LED、有機ELが主流となることで、光る家具やプロダクト、光の色によって生活空間を演出するなど光の選択肢が多様化することが予測されます。

「住まい」では自然光利用技術の発達や、生体センサーによる照明制御など照明を含めたあらゆる設備がシステム化される可能性があります。

そして、「ヒト」は山のようにある選択肢の中から好みの光を見つけ生活するようになるのでは、と予測しました。近い将来、あかりの個性がより顕著に生活空間の中に現れ、ひょっとすると、現在の白色や電球色の窓あかりが、それぞれ違ったカラフルな窓あかりに変身するかもしれません。

また、未来の光を実際に体験すべく、新たな光と生活シーンの実寸モデルをコイズミ照明さんにご協力頂き作成しました。レポートではその生活の様子をショートフィルムにまとめて上映しました。光るペットが出迎えてくれたり、光るランチョンマットで食事をしたり、、、空想上のあかりと実際に生活してみると、なかなか新鮮で心地の良い感覚でした。探偵団からのレポートでは大胆な未来予測をしましたが、光ということを軸に未来を考えると、このようなことも夢ではないように思います。

■橋本夕紀夫さん「自作を通して明日をみる」

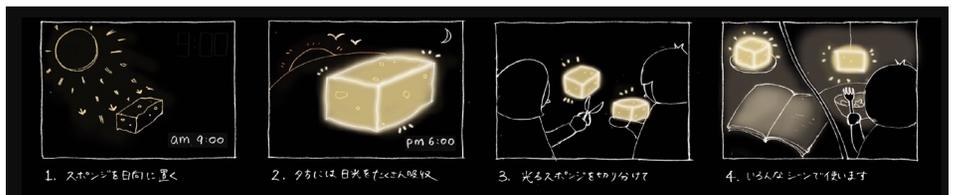
今回はゲストスピーカーに、インテリアデザイナーの橋本夕紀夫さんをお迎えしました。光に対して啓蒙的な作品を数多く作られ、商業空間だけにとどまらず住宅もデザインされている橋本さんから、近作の紹介や住まいのあかりについてお話を頂きました。

光のみを変化させることでリノベーションをしたバーや京都の町屋のお話では、光だけでがらっと空間の雰囲気を変える橋本さんのデザインに、会場の皆さんや私たちも驚かされました。

話は住まいのあかりへと移り「住宅では自然と光がただずんでいるようなナチュラルで住まい手を邪魔しない照明を求めたい」と話されました。そのようなあかりは、住まい手がフレキシブルに照明を付け替え、あかりを楽しむことが出来るようになることで実現されるかもしれないとのことでした。未来の住まいのあかりを考える上で大切なキーワードが満載のお話を伺うことができました。

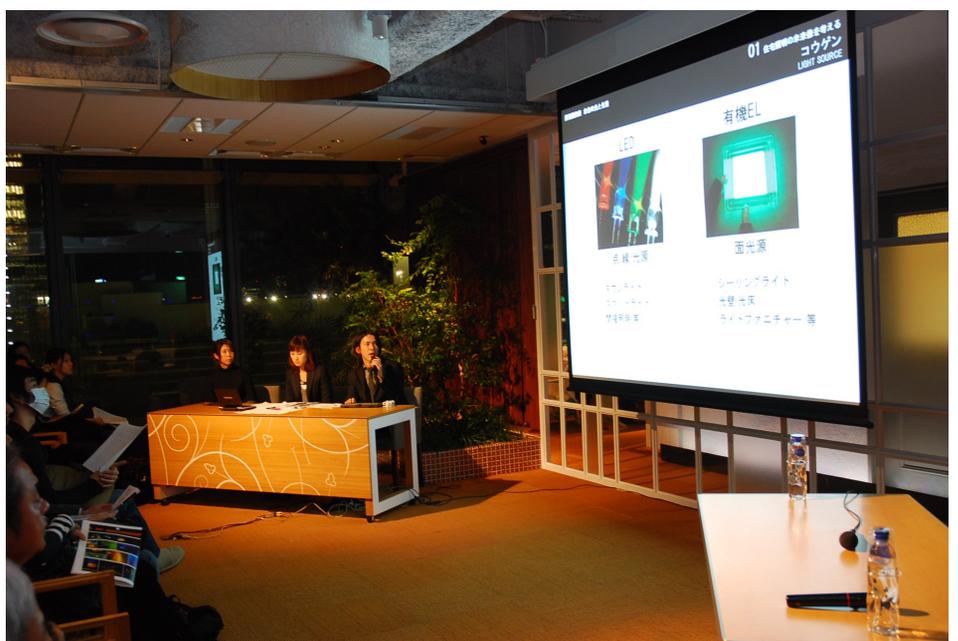


未来の光と生活のショートフィルムを作成した。



1. スポンジを南向に置く
2. クラには日光をたくさん吸収
3. 光るスポンジを切り分けて
4. いろんなシーンで使います

昼間の光を吸収するスポンジ。夜は家族で切り分けて使う。



探偵団は近未来の住まいのあかりを大胆に予測した。

■対談 橋本夕紀夫×面出薫「住まいのあかりが私を変える？」

フィナーレであるお二人のトークセッションは大変盛り上がり、予定時間をオーバーしてしまうほどでした。ミースやコルビュジエからはじまり現代の若手建築家の住宅作品を眺め、自分ならばこういう照明をするなどいろいろなアイデアを出し合いながら、住宅照明の未来像を探っていきます。

面出団長の北欧住宅照明の話や、橋本さんが手がけられたホテルの話から、これからの住まいに求められるのは、「リラクゼーションだけではなくエンターテインメント性である」と住宅照明の未来像がだんだんと輪郭を持ち始めました。

未来では住まいをリラックスする場所としてだけでなく、気軽に友人を誘いパーティーをするなど自己表現の場として使用するのかもしれませんが。そんな時私たちは、住まいをあかりでどんどん変化させ演出することを楽しんでいるのではないのでしょうか。お二人の対談を通じ、未来には家族や友人とのコミュニケーションに住まいのあかりが重要な要素となってくるだろうという確信を得ることが出来ました。

■3回にわたるサロンを振り返って

サロンの最後には、3度のサロンを振り返って改めて未来の住まいのあかりを展望しました。今までのサロンを振り返ると、1回目では、日本の伝統家屋に残る心地の良い光を忘れてはならないということに気付かされ、2回目では、白熱灯を調光するなど工夫して使うことで蛍光灯に負けず少ないエネルギーで豊かに暮らすことができることがわかりました。そして最後には面出団長が次のような未来の生活シーンにおける4つの予測をたてました。①新光源（LEDや有機EL）が革新する生活情景、②コンピューターがつくる便利と多様な場面の転換、③自然光（太陽と火）をめぐる生活態度、④わずかな光を楽しむ生活様式。

私たちは未来に、多様で、個性的で、快適なあかりを手に入れるのではないかと展望し、3回シリーズのサロンを締めくくりました。

（藤井美沙）



橋本氏から光が大きなコンセプトとなった作品をご紹介頂いた。



トークセッションでは未来の住まいのあり方にまで話が及ぶ。



会場にいらしていた照明デザイナー武石さんにもコメントを頂いた。



探偵団の大胆予測に面出団長から辛口のコメンに入る。

【照明探偵団の活動は以下の 20 社にご協賛頂いております。】

ルートロンアスカ株式会社
岩崎電気株式会社
カラーキネティクス・ジャパン株式会社
パナソニック電工株式会社
ヤマギワ株式会社
山田照明株式会社
マックスレイ株式会社
ニッポ電機株式会社
エルコライティング株式会社
ウシオライティング株式会社
株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン
トキ・コーポレーション株式会社
東芝ライテック株式会社
コイズミ照明株式会社
マーチンプロフェッショナルジャパン株式会社
タルジェットイ ポールセン ジャパン株式会社
株式会社遠藤照明
湘南工作販売株式会社
株式会社ウシオスペックス
森山産業株式会社

